

授業科目名	環境・グリーンツーリズム実践研究Ⅰ・Ⅱ	担当教員名	河本 大地			
コース名	文化・自然ツーリズム（環境・グリーン）					
科目区分		単位	配当年次	実施時期	曜日・時限	形態
コース別専門科目	選択必修	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	3	Ⅰ：春学期 Ⅱ：秋学期	月・4	講義
授業概要 <p>地域づくりにおいて活躍していくためには、「比較の基盤」として特定の地域を深く理解し十分な経験を積んでおく必要がある。そこで、河本が観光・地域づくりのアドバイザーをしている兵庫県美方郡香美町<small>あじろ</small>小代区を主たるフィールドとし、厳しい自然環境の中で生きてきた人々の知恵や技や考え方、および現代的課題について、四季を通じて現地の方々から教わり、ともに考える。学内の授業では、統計や地図、地誌等の見方・作り方や、収集したデータの活かし方を中心に学ぶ。</p>						
到達目標 <p>① 地域に関わるさまざまな立場の方々から学びを得られるよう、コミュニケーション能力を磨く。特に、農山村地域とそこに暮らす人々の状況を深く理解できるようにする。</p> <p>② 地域の魅力を掘り起こし発信する能力を身につける。</p> <p>③ 地域の見方、調べ方を身につける。</p>						
授業の運営方法 <p>講義、フィールドワーク、報告書作成・成果報告を組み合わせで行う。なお、全員が集まる時間を有効に使うため、フィールドワークの準備やまとめ等は授業時間以外に各自行うこと。</p>						
関連科目・知識・スキル <p>◆「<u>農村地域活用法</u>」と連動させます。必ず履修してください。</p> <p>◆3年次以降に開講される下記の専門科目も、なるべく履修してください。 「エコツーリズム論」、「グリーンツーリズム創造論」、「観光環境学」</p> <p>◆1年次から開講されている下記科目も密接に関係します。早期の履修を強く勧めます。 「自然環境保全論」、「自然地理学」、「観光プロモーション論」、「地域振興論」</p>						
成績評価 <p>☆ 成績評価はポイント制です。 …最終試験は行いませんが、課題（特に成果物が重要）の提出は求めます。 また、授業を進めるうえでの重要な役割を担ったり、授業内容にかかわる活動に参加してその成果を報告したりすると、ポイントが加算されます。</p>						
教科書・参考書など <p>授業等で参考文献を紹介します。</p>						
履修上の注意事項 <p>☆ 履修希望者は、<u>面談を実施</u>します。早めにアポを取り、私の部屋に来てください。 ☆ 特に、履修中に留学を希望している人は、早めに相談してください。 ☆ 学外での授業については1ヶ月以上前の告知を心がけますので、アルバイト等よりも極力優先してください。宿泊・交通費等の一部自己負担がありますが、軽減の努力をします。</p>						

授業スケジュール

◆エコツーリズムとは？ グリーンツーリズムとは？ (1回)

◆「地域多様性」の発想と、地域調査の作法 (2回)

☆フィールドワーク① (3回分、「但馬牛のふるさと」香美町小代区にて5月前半に実施)

- ・ 小代めぐり (地域全体を五感で把握、地図の使い方や情報収集法の習得)
- ・ 地域づくりのキーパーソンへのインタビュー ⇒聞き書きの作成
- ・ 4回生のお世話になった山村集落で先輩たちと地域づくりワークショップを実施

◆地域分析手法とグラフィック系ソフトの基礎トレーニング (5回)

◆調査の分担と調査票の作成 (2回)

☆フィールドワーク② (6回分、香美町小代区にて8月上旬に実施)

- ・「但馬牛のふるさと・小代」を支える牛飼い農家さんをすべて訪ね、社会経済的状況、ライフストーリー、今後の方向性などについてインタビュー

◆収集データの整理・分析と記録の作成 (3回)

☆フィールドワーク③ (3回分、香美町小代区にて11月上旬に実施)

- ・ 前回調査の補足
- ・ 小代めぐり (区内の他地域を訪問、紅葉を愛でながら「歩く旅」の可能性を検討)

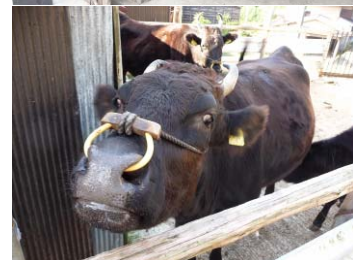
◆成果報告書の作成 (2回)

☆フィールドワーク④ (2回分、香美町小代区にて1月頃に実施)

- ・ 小代の方々に対し成果発表を行い、ご助言を得る
- ・ スキー場と冬の暮らしの見学

◆1年間のふりかえりと今後について (1回)

この地域で環境教育プログラムやツアーを作成し商品化しようという話も上がっています。地域の諸事情も変わるかもしれません。したがって、一部の内容が変更になる場合があります。



*写真は香美町小代区です。

学生への一言

☆ 学外の方々や授業進行に迷惑がかからないよう、報告・連絡をきちんとすること。

☆ わからないこと、困ったことは、何でも相談してください。

授業科目名	環境・グリーンツーリズム実践研究Ⅰ・Ⅱ		担当教員名	小槻 文洋		
コース名	文化・自然ツーリズムコース					
科目区分		単位	配当年次	実施時期	曜日・時限	形態
コース別専門科目	選択必修	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	3	Ⅰ：春学期 Ⅱ：秋学期	月・4	講義
授業概要						
<p>地域の自然、歴史、文化を体験し学びながら、その保全にも責任を持つ「エコツーリズム」。それは大自然や農村でのみ成立するものではありません。地元神戸でも、海・山・街をフィールドとしたエコツーリズムが成立するはず。「人と自然の関わり」を一つのキーワードに、神戸でどんなエコツーリズムが可能なのか、各自の関心にしがたって、資料を探し、文献を読み、見学し、発表・問題提起を繰り返して、なんらかの企画・成果物にまとめていければと思います。</p>						
到達目標						
<p>①自分の決めたテーマに関連する資料を集め、適切に整理し保存できる。 ②収集した資料を批判的に読み、自分の考えをまとめ、他の人に伝えることができる。 ③収集した資料を活用、正しい方法で引用、編集し、自分の文章としてまとめることができる。 ④他の人の考えに耳を傾け、疑問やアイデアを加えて、建設的なディスカッションを行うことができる。</p>						
授業方法(展開)						
<p>ゼミ形式です。教員からの一方的な講義ではなく、学生主体の発表と質疑応答が中心になります。全員で手分けをして文献を読み進める回と各自のテーマについて発表をする回がありますが、どちらも担当者は、割り振られた部分や各自のテーマについて事前に内容をまとめてきて発表を行い、問題提起をしてください。担当以外の方は、問題提起をうけて、議論に参加してもらいます。</p>						
関連科目・知識・スキル						
<p>4年次の「環境グリーンツーリズム総合研究Ⅰ・Ⅱ」に接続します。3年次以降に開講される「エコツーリズム論」「グリーンツーリズム創造論」「観光環境学」「文化遺産活用論」はなるべく履修すること。「農村地域活用法」についても、必要があれば、相談の上受講をすることを勧めます。</p>						
成績評価						
<p>授業への取り組みにより総合的に評価します。</p>						
教科書・参考書など						
<p>授業のなかで指示します。</p>						

履修上の注意事項

1. 履修希望者とは面談を行い、志望理由や関心、取り組みたいテーマなどを確認します。3・4年生の2年間継続するゼミですので、十分内容を理解したうえで履修してもらいたいと思います。なお、4年次の「環境グリーンツーリズム総合研究Ⅰ・Ⅱ」では、それぞれ各自のテーマで卒業研究を行い、論文・報告書をまとめることになるので、承知してください。
2. 事前準備、授業での発表、レポートの作成が必須です。
3. 数回程度、他の実践研究クラス（文化・自然ツーリズムコース）のフィールド訪問や合同ゼミを行う可能性もあります。
4. フィールドワークについては、1 Semesterあたり各自 2500 円まで学外教育補助がありますが、超過分については自己負担となるので注意してください。

授業の柱(単元)と授業スケジュール

春学期 15 回、秋学期 15 回のなかに、全員で手分けをして同じ文献を読み進める作業と、各自のテーマについて調査し発表をする作業を盛り込み、並行して進めていきます。各自のテーマについては、学年末に調査結果をレポートにまとめます。具体的なスケジュールは、履修生の関心等をふまえて、学期初頭に検討・決定しますが、概ね以下の流れを想定しています。

- (1) オリエンテーション(1 講目)
- (2) 文献探索、収集
- (3) 文献講読
- (4) 調査票作成
- (5) 現地調査 (学外教育)
中間まとめ
再調査 (学外教育)
- (7) まとめ、レポート作成
- (8) 報告会 (15 講目)

考えられるテーマ

- ・人と自然の関わり (例: 自然体験、都市の緑地、親水域の活用)
- ・自然災害と防災・減災 (水害・震災など)、
- ・記憶の語り継ぎ (例: 災害 (天災・戦災)、地域史、産業史、移民史)

など

学生への一言

ひとつのテーマを与えられ、自分なりに調べる。調べたこと、考えたことを他の人に話し、質問やアドバイスを得て、より良いものにまとめる。他の人の意見を注意深く聞き、建設的な意見を出す。他の人を説得する。こうした力は、社会にでても必要になるでしょう。そうした力の訓練の場にもなればと思います。